

## 忘れかけていた税金の存在

川口市立芝西中学校3年 中村 佳鈴

私は次の三月で中学校を卒業して、四月から高校生になります。つまり、学習に関する物の大部分を税金で支えてもらっていた九年間の義務教育を終える事となりました。これに伴い、今まで当たり前のように受けていた授業に対する授業料、無償で頂いていた教科書、学校の備品等、今後は自分で全て支払っていく事になります。高校に進学するにあたり、税金のありがたさを再認識し、今更ながらとても感謝しています。それまで当たり前すぎて忘れかけていた、この感謝の気持ちがあるきっかけが私に思い出させてくれました。

そのきっかけとは姉の大学進学です。姉は四月から私立大学の医学部に通っています。姉の子供の頃からの将来の夢は医師になる事でした。姉が中学生の頃までは軽い気持ちで応援していた両親も、高三になり、その夢にだんだんと現実味が増してくると、両親は反対する様になりました。医学部進学には多額の授業料がかかるからです。私は何一つ不自由のない生活を送らせてもらっていて、とても恵まれた環境にいます。しかし、それでも、一般家庭には医学部の学費は払えない現実があります。幼い頃からの夢を反対される姉も可哀想でしたが、金銭的な問題のせいで娘の夢を応援できない両親はその何十倍も辛かった事と思います。そんな中、何とかして娘の夢を応援できないかと両親が探していると、埼玉県HPで「埼玉県医師育成奨学金」というものを見つけました。これは、医師不足解消と将来埼玉県の地域医療に貢献する医師を目指す方の受験の機会を広げる為、埼玉県が貸与する奨学金です。更に、この奨学金は一定期間、埼玉県の医療に貢献すれば返還が免除されます。この制度に後押しされて、両親は姉の夢を心から応援できる様になりました。姉が国公立大学だけでなく、私立大学進学も視野に入れられたのもこの奨学金のお陰です。奨学金を借りる事で、姉は将来の夢へと大きな一歩を踏み出せました。もし奨学金がなければ姉はかなり悔しい思いをして、進学そのものを諦めていたかもしれません。しかし今、姉は大学生としてキラキラと輝いて見えますし、何より一度は反対された医学部進学を叶える事ができ、とても幸せそうです。こんな風に誰かを笑顔にできる、今後の人生を変える力を持っている奨学金は本当に素晴らしいと思いました。また、その基となっている埼玉県の税金には頭が上がりません。

この出来事を通し、私は忘れかけていた税金の存在を再び思い出しました。学生の私は消費税位しか貢献できないのに、それさえも嫌だなど思う事が正直ありました。しかし、今はそんな思いは一切ありません。私が今、貢献できる金額は少ないですが、今も誰かの為になっていると思うと誇らしいです。そして、今日まで充実した学習環境を整えてくれた納税者の皆さんと同様、私も未来の子供たちの為に立派な納税者になりたいです。